

一般社団法人日本伝統文化検定協会設立趣意書

2024年(令和6年)1月11日

わが国には諸外国に類を見ない、高い独自性と普遍性を持つ多様な伝統文化と伝統産業があります。そして、美しい自然と長い歴史の中で育まれてきた技を磨き、地域のなりわいを支えるため、重要無形文化財保持者(人間国宝)をはじめとする文化の継承者や優れた職人が、全国各地に根を張って研さんを続けています。

しかしながら、わが国独自の文化や産業は、一般の人々による鑑賞や体験、使用の機会の減少に加え、安価な量産品の流通拡大や作り手・担い手の高齢化を背景に、もはや存続自体が危ぶまれているのが実情です。引退・死亡による職人の不在や収入の低迷で既に生産をやめた工芸品も少なくなく、伝統的技法の維持と後継者の育成はまさに喫緊の課題となっています。

国や自治体も長年にわたり、補助金などによる産地振興や人材確保に取り組んできましたが、残念ながら作り手・担い手への支援だけで厳しい現状を打開することは難しいと言わざるを得ません。日本の伝統文化と伝統産業を守り、育てていくには、やはり国内外の一般消費者にその価値を知ってもらい、価値に見合った対価の支払いを理解してもらうことが不可欠です。

地球温暖化、プラスチックごみによる海洋汚染など、大量生産と大量消費による弊害はますます深刻化しています。自然と対峙するのではなく、恩恵も脅威も謙虚に受け入れ、自然と共に暮らすことを基本としてきた日本の伝統を学ぶことは、今ある文化と産業の在りようを持続可能性の観点から見詰め直すことであり、極めて今日的な意味を持っています。

私どもはこうした認識の下、ここに新たな検定実施機関を設立し、日本の伝統文化と伝統産業に関する検定を通じて国内外の人々に学びの機会を提供するとともに、理解者、支援者となる合格者を増やすことで、その継承・発展を図ろうとするものです。決して容易な事業でないことはもとより覚悟の上ですが、この検定の普及が地域の活性化と対日理解の促進にもつながることを信じてやみません。各位のご賛同、ご支援を切に望む次第です。

発起人(五十音順)

株式会社時事通信社、時事通信ビジネスサポート株式会社、株式会社ジャパントイムズ、メイド・イン・ジャパン・プロジェクト株式会社

賛同者(五十音順、敬称略、1月11日時点)

赤瀬浩成、川本恭治、隈研吾、古河久人、近衛忠大、小宮山宏、小谷野悦光、近藤宙時、齋藤知久、境克彦、白洲信哉、鈴木三月、末松弥奈子、外館和子、長門正貢、西山隆一郎、平子裕志、政近準子、三村明夫、村井嘉浩、山口仲美、養老孟司